

1-5 インド学仏教史

研究・教育活動の概要と特色

本研究室は、インドの古代および中世において成立した思想と文化およびその発展を、主に古典語であるサンスクリット語で残された文献、およびチベットで成立した仏教文献から解明する研究をその活動の中心に据えている。近年のインドは経済的発展が著しいけれども、インド人の旺盛な知的活動の背後には、鋭い言語感覚に裏打ちされた古典文化の歴史的伝統がある。在俗の司祭階級であるバラモンたちは、紀元前の古代において宗教文献ヴェーダとサンスクリット語文典を確立し、また王家の英雄物語から浩瀚な叙事詩を編纂し、中世以降は様々な分野の学術書と共に、民間の宗教信仰を形にした神話文献群を作りだした。人生苦を克服するための出家教団として出発した仏教は、やがて他者救済を掲げる大乘仏教を生み出し、さらにバラモンの哲学学派と対抗しつつ、感覚と儀礼を重視する密教へと変貌する。これら多様な分野のいずれにも多くの原典が残されており、精密に仕組まれた古典語を文法的に正確に理解し、かつ先行研究を十分に踏まえることにより文献上の証拠固めをした上で、緻密な体系性と豊かな想像力を兼ね備えた古典インド文化を新たに解明していくことを、本研究室ではおこなっている。

二名の専任教員のうち吉水は、中世初期のヒンドゥー教興起の時代を中心として、バラモンたちがヴェーダの伝統の継承と他学派との論争を通じて、インド社会の中で人間の認識能力と行為規範をどのように考えたかを研究している。桜井は、インド、チベットのタントラ仏教を中心に未開拓の分野の解明に努め、さらに、インドからチベットへの仏教流伝の経過と、チベットにおける咀嚼・展開の具体像を考究している。後進が育ちつつある分野は、ヴェーダ文献を中心とする文法、祭式、思想、ウパニシャッドから仏教興起時代にかけての宗教・思想、古典期の占い文献、初期仏教、インド・チベット仏教の儀礼と思想などであり、国内外の専門家と協力して研究を進めている。また宗教学専攻分野と協同運営する「印度学宗教学会」は、文献研究の方法・成果を宗教学、民俗学、民族学と相互検証する機会として機能している。

I 組織

1 教員数 (2015年5月20日現在)

教授：2

教授：桜井宗信，吉水清孝

2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
6	0	2	3	0

3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)
10	1	0	0
11	0	2	1
12	1	1	1
13	3	0	0
14	1	0	0
計	6	3	2

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	1	1
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
計	1	1	2

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

村上幸三，2010年度，「シャンカラにおける無明の神学」（論文博士），

審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

山田智輝，2012年度，「Rgvedaにおける Sarasvatī の研究 — 河川の女神の諸
相」（課程博士），審査委員：教授・吉水清孝（主査），教授・桜井宗信，
教授・鈴木岩弓

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	8	0	0	0	8
11	3	0	1	0	4
12	2	0	0	0	2
13	2	0	0	0	2
14	6	0	1	0	7
15	6	0	0	0	6
計	27	0	2	0	29

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	3	9	0	0	12
11	2	8	0	0	10
12	2	9	1	0	12
13	1	9	0	0	10
14	0	5	0	1	6
15	0	2	0	0	2
計	8	42	1	1	52

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 伊久間洋光 「智光明莊嚴經をめぐって—『宝性論』『自然不休息仏業品』及び『性起經』との関係を中心に—」『印度學佛教學研究』, 第 59 卷, 第 1 号, pp.391-395, 2010 年 12 月.
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』の対応関係について」『印度學佛教學』, 第 60 卷, 第 2 号, pp.175~p179, 2012 年 3 月.
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』の梵文写本について」『印度學佛教學研究』第 61 卷第 2 号, pp.171-175, 2013 年 3 月.
- 伊久間洋光 「如来を分別する—『如来秘密經』の伝をめぐって—」『豊山教学大会紀要』 41, pp.21-36, 2013 年 3 月.
- 伊久間洋光 「金剛手の授記—『如来秘密經』を中心に—」『密教学研究』 46, pp.21-38, 2014 年 3 月.
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』梵文写本の翻刻—法護訳第 25 章: *Tathāgaguhyā(kā)Dhāraṇī* 対応箇所—」伊久間洋光, 『豊山学報』 57, pp. 75-82, 2014 年 3 月.
- 伊久間洋光 「『勝天王般若經』の編纂過程—『如来秘密經』梵本との比較を中心に—」『豊山教学大会紀要』 43, pp. 33-47, 2015 年 3 月.
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』梵文写本の翻刻—法護訳第二十三章・第二十四章相当箇所—」『豊山学報』 58, (印刷中) .
- Junichi OZONO “Das Vedische bei Pāṇini” *Studien zur Indologie und Iranistik*, Band 27, (2010), pp. 237-256, (2011 年 10 月刊行) .
- 菊谷竜太 「インド密教における『秘密集会タントラ』の受容と展開」『日本佛教学会年報』 77 号, pp.213-235, 2012 年.
- Ryuuta KIKUYA "Reconstruction of Buddhaśrījñāna's **Caturaṅga-sādhana-Samantabhadrī*", *Journal of Indian and Buddhist Studies (Indogaku Bukkyōgaku Kenkyū)*, Vol. LX No.3, pp.1264-1270. 2012 年 3 月.
- 菊谷竜太 「チベットにおける護法尊の受容と展開」『東北アジア研究センター研究センター報告 8』, pp.51-68, 2013 年 3 月
- 菊谷竜太 「インド密教聖典の形成と受容」『聖典とチベット』, 東北アジア研究センター (掲載予定)
- 菊谷竜太 「イントロダクション—聖典とチベット」『聖典とチベット』, 東北アジア研究センター (掲載予定)
- 菊谷竜太 「空間と儀礼—観想すべき曼荼羅と描かれるべき曼荼羅」『空間史学研究叢書Ⅲ』 (掲載予定)

- Sudan SHAKYA 「The interpretation of Ādibuddha: as describe in the Nāmasaṃgīti commentaries」 『印度學佛教學研究』 第 58 卷第 3 号, 2010 年 3 月.
- Sudan SHAKYA 「Vasundharā と Vasudhārā」, 『印度學佛教學研究』 第 59 卷, 2011 年 3 月.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における発酵乳と Soma の神話—sāmnāyya を中心として」 『論集』 第 37 号 pp.141—158, 2010 年 12 月.
- 西村直子 “*āmikṣā* and *payasy* 鑛 Processing of fermented milk in ancient India” 『印度學佛教學研究』 第 59 卷第 3 号, pp.10—16, 2011 年 3 月.
- Naoko NISHIMURA “Vedic *āti-pavⁱ/pū*” 『印度學佛教學研究』 第 60 卷, 第 3 号, pp.8—13, 2012 年 3 月.
- 西村直子 著書 (共著) 大島智靖・西村直子・後藤敏文 「GAV—古インド・アーリヤ語文献における牛—」 (中洋言語・考古・人類・民俗叢書 3), 総合地球環境学研究所 インダス・プロジェクト (167 ページ), 2012 年 3 月.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における誕生の神話と儀礼—後産分娩を中心として」 『論集』 印度学宗教学会, 第 39 号, pp.(75)—(92), 2012 年 12 月.
- 西村直子 長田俊樹編著 『インダス 南アジア基層世界を探る』 第 8 章インダス文明の牧畜 序文 pp.234—236 及び第 3 節 牛を伴侶とした人々 pp.260—274 (分担執筆), 2013 年 10 月
- 西村直子 「タイッティリーヤ・ブラーフマナにおける新月祭・満月祭のマントラー Upavasatha に関する III 7,4 を中心として」 『論集』 第 40 号, pp.125-150, 2013 年 12 月(2014 年 8 月刊行).
- 西村直子 「Maitrāyaṇī Samhitā I 1,3^m (IV 1,3^p) — 新月祭・満月祭の upavasatha における搾乳と dadhi 製造」 『奥田聖應先生斯学 50 年記念論集』, pp.271—285, 2014 年 5 月.
- Naoko NISHIMURA “*úlba-* and *jarāyu-*: Foetal appendage in Veda”, *Journal of Indological Studies* 24&25, pp.169-186, 2014.
- Naoko NISHIMURA “Processing of dairy products in the Vedic ritual, compared with Pāli” *Proceedings of 15th World Sanskrit Conference, Veda Session.*, pp.211-225, 2014.
- 西村直子 「Ṛgveda X 128 Vihavya-Sūkta の展開」 『印度学佛教學研究』 第 63 卷第 2 号, pp.(252)-(258), 2015 年 3 月.
- Naoko NISHIMURA “The Development of the New- and Full-Moon Sacrifice

and the Yajurveda Schools: mantras, their brāhmaṇas, and the offerings
„Proceedings of 5th International Vedic Workshop, 印刷中.

Naoko NISHIMURA " Mantra Collections used for the Darśapūrṇamāsa in the
Taittirīya-Brāhmaṇa: Focusing on the Upavasatha day", Proceedings of the 6th
International Vedic Workshop, 印刷中.

Yumi FUJIMOTO “On rules of Upasampadālocanā in Vyavahārabhāṣya 1” 『印度學
佛教学研究』第 59 卷, 第 3 号, 2011 年 3 月.

松村幸彦 「Ratnākaraśānti の説く Hevajra 系觀想法について—三昧と
三身の関係を中心に—」『論集』40 号, pp.(117)–(135), 2013 年 12 月(2014
年 8 月刊行).

山田智輝 「Ṛgveda における Sarasvatī —RV VII 95,96 を中心に—」『論
集』印度学宗教学会, 第 37 号, pp203–217, 2010 年 12 月.

Tomoki YAMADA 「The Image of Ṛgvedic Sarasvatī: RV VII 95, 96」 『印
度學佛教学研究』, 第 59 卷第 3 号, pp1103–1108, 2011 年 3 月.

(2) 口頭発表

伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』について—『宝性論』『自然不休息仏業
品』及び『性起經』との比較から—」, 日本印度学仏教学会第61回学術
大会, 立正大学, 2010年9月10日.

伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』をめぐって—自性清浄心から如来蔵へ—」
豊山教学振興会第 39 回教学大会, 真言宗豊山派宗務庁舎 2010 年 11 月
5 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』について」日本印度学仏教学会第 62 回学術大会
龍谷大学, 2011 年 9 月 7 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』」, 豊山教学振興会第 40
回教学大会, 真言宗豊山派宗務庁舎, 2011 年 11 月 2 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』の梵文写本について」日本印度学仏教学会
第 63 回学術大会, 鶴見大学, 2012 年 6 月 30 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』の仏伝について」豊山教学振興会第 41 回教
学大会, 2012 年 11 月 2 日

伊久間洋光 「金剛手の授記—『如来秘密經』を中心に—」日本密教学会
第 46 回学術大会発表予定, 真言宗豊山派宗務庁舎, 2013 年 11 月 1 日.

伊久間洋光 「『勝天王般若經』の編纂過程—『如来秘密經』梵本との比

較を中心に―」豊山教学振興会第43回教学大会 於真言宗豊山派宗務庁舎 2014年6月19日.

Junichi OZONO “Pāṇinis Angaben zum Vedischen” 31. Deutscher Orientalistentag Marburg 2010年9月21日.

Junichi OZONO “The periphrastic perfect in the Vedic language and Pāṇini’s Grammar” The Fifth International Vedic Workshop. Vedic śākhās: Past, Present and Future, Bucharest (Romania), 2011年9月23日.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流と『秘密集会』積タントラ」平成23年度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2011年7月15日.

菊谷竜太 「インド密教における『秘密集会タントラ』の受容と展開」2011年度日本佛教学会学術大会, 北海道大学, 2011年8月31日.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流と『吉祥金剛心髓莊嚴タントラ』」日本印度学佛教学会第62回学術大会, 龍谷大学, 2011年9月7日.

菊谷竜太 「空間と儀礼―チベットにおけるルーラン・キンコル（立体曼荼羅）について」平成24年度第1回空間史学研究会, 東北大学, 2012年4月24日.

菊谷竜太 「ツォンカパの臨終積『黄金の門を開く』について」第54回印度学宗教学会学術大会, 東北福祉大学, 2012年6月3日.

菊谷竜太 「Samputodbhavantra のテキストの伝承をめぐって―ツォンカパとの関わりから」平成24年度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2012年6月8日.

菊谷竜太 「Samputodbhavantra 8-3 をめぐって」日本印度学佛教学会第63回学術大会, 鶴見大学, 2012年7月1日.

菊谷竜太 「蒙満における成就法と曼荼羅儀軌の相承―クンチョクジクメワンポを中心に」国際シンポジウム・チベット美術の過去現在未来, 石川県立歴史博物館, 2012年8月25日.

菊谷竜太 “On the Tradition of utpattikrama- in the Jñānapāda School”, The Vikramaśīla Workshop, 2012年9月18日, 東京大学.

菊谷竜太 「Vajrāvalī における*Sārdhatriśatikā について」印度学宗教学会第55回学術大会, 駒沢女子大学, 2013年6月2日.

菊谷竜太 「インド密教における成就法と曼荼羅儀軌について」平成25年度密教研究学術大会, 高野山大学, 2013年7月12日.

菊谷竜太 「『四百五十頌』における観想法と儀礼について」日本印度

- 学仏教学会第 64 回学術大会，島根県民会館，2013 年 8 月 31 日。
- 菊谷竜太 「インド密教における(sarva)tantra-の定義的用例」パウッダコー
ーシャ公開シンポジウム，東京大学，2013 年 11 月 30 日。
- Ryuta KIKUYA “Two Steps (dvikrama-) in the Jñānapāda School of Indian Tantric
Buddhism” The Evolution of Tantric Ritual, University of California, Berkeley,
2014 年 3 月 16 日。
- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流と「秘密集会」の継承について」第
56 回印度学宗教学会学術大会，種智院大学，2014 年 6 月 1 日。
- 菊谷竜太 「『成就法集成』に収録されたジュニャーナパーダの成就法
について」平成 26 年度密教研究会学術大会，高野山大学，2014 年 7 月
11 日。
- 菊谷竜太 「Samputodbhavatantra の三注釈について—Āmnāyamañjarī 1 の
mañjarī と piṇḍārtha をめぐって—」日本印度学仏教学会第 65 回学術大会，
武蔵野大学，2014 年 8 月 30 日。
- 菊谷竜太 「再生する聖地—チベット圏の内と外」まちなかカルチャー
スクール（吉野作造記念館），クラフト木村，2015 年 3 月 18 日（市民
講座）。
- 菊谷竜太 「インド密教におけるバリ儀礼について」印度学宗教学会第
57 回学術大会，東北大学，2015 年 5 月 31 日（発表予定）
- 坂英世 「パーリ仏典における āhāra とその動詞表現」印度学宗教学
会第 57 回学術大会，東北大学，2015 年 5 月 31 日（発表予定）
- スダン・シャキヤ 「ネパールの生き神クマーリー —ヒンドゥー教徒
と仏教徒の信仰をめぐって—」，第 53 回印度学宗教学会，大阪国際大学，
2010 年 5 月 29 日。
- Sudan SHAKYA “The interpretation of twelve syllables of the *Nāmasaṃgīti*”, 12th
Seminar of the International Association for Tibetan Studies, University of
British Columbia, 2010.8.
- スダン・シャキヤ 「ネパールにおける Vasudhārā —Vasundharā と
Vasudhārā—」，日本印度学仏教学会第 61 回学術大会，立正大学，2010
年 9 月。
- 西村直子 「ヴェーダ文献における発酵乳加工」印度学宗教学会第 53 回
学術大会，大阪国際大学，2010 年 5 月 29 日。
- Naoko NISHIMURA “*āmlkṣā* and *payasyā*: Fermented milk in ancient India —

Soma, Indra, and the milk—” 20th International Association for History of Religion World Congress, University of Toronto, 2010.8.19.

西村直子 「āmikṣā と payasyā —古代インドにおける酸乳加工への一視点」日本印度学仏教学会第 61 回学術大会, 立正大学, 2010 年 9 月 10 日.

西村直子 「ūlba- と jar 糞u- : Veda文献に見られる胎児付属物」第17回インド思想史学会, 京都大学, 2010年12月25日.

Naoko NISHIMURA “Cows and bulls in Old Indo-Aryan literature” (招待発表) インダス・プロジェクト国際シンポジウム“Environmental change and the Indus Civilization”, 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 (京都) 2011年8月7日.

西村直子 「Veda文献における動詞 *ati-pū*」 第62回 日本印度学仏教学会学術大会 龍谷大学 2011年9月7日.

Naoko NISHIMURA “The Development of the New- and Full-Moon Sacrifice and the Yajurveda Schools: mantras, their brāhmaṇas, and the offerings.” 5th International Vedic Workshop Novotel, Centre of Eurasianic and Afroasiatic Studies (CEAS) (Bucharest, Romania) 2011年9月22日.

Naoko NISHIMURA “Processing of dairy products in the Vedic ritual, compared with Pāli” 15th World Sanskrit Conference (Veda section) Rashtriya Sanskrit Sansthan (RSkS) (New Delhi, India) 2012年1月6日.

西村直子 「ヴェーダ文献における誕生の神話と儀礼」印度学宗教学会第 54 回学術大会, 東北福祉大学, 2012 年 6 月 3 日.

西村直子 「Yajurveda 各学派の Saṁhitā における「搾乳と dadhi 製造」 mantra 集成の比較」インド思想史学会第 19 回学術大会, 京都大学, 2012 年 12 月 22 日.

西村直子 「タイッティリーヤ・ブラーフマナにおける新月祭・満月祭のマントラ」印度学宗教学会第 55 回学術大会, 駒沢女子大学, 2013 年 6 月 2 日.

Naoko NISHIMURA “Mantra Collections used for the Darśapūrṇamāsa in the Taittirīya-Brāhmaṇa: Focusing on the Upavasatha day” The 6th International Vedic Workshop, Kozhikode, India, 2014年1月7日

西村直子 「RV X 128 Vihavya-Sūktaの展開」日本印度学仏教学会第65回学術大会, 武蔵野大学, 2014年8月31日.

藤本有美 「Vyavahārabhāṣya 第 1 章における upasampadālocanā の規定について」日本印度学仏教学会第 61 回学術大会, 立正大学, 2010 年 9 月.

藤本有美 「Vyavahārabhāṣya 第1章の内容と構成について」 ジャイナ教
研究会，大谷大学，2011年10月。

松村幸彦 「Ratnākaraśānti の説く観想法について—ヘーヴァジュラ系を中
心に—」 印度学宗教学会第55回学術大会，駒沢女子大学，2013年6月。

山田智輝 「ネパール・ララ湖に伝わる神話を巡って」 第53回印度学宗
教学会学術大会，大阪国際大学，2010年5月30日。

山田智輝 「リグヴェーダにおけるサラスヴァティーに関する記述を巡
って」 日本印度学仏教学会第61回学術大会，立正大学，2010年9月。

山田智輝 「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌 VII 95, 96」 イン
ダス・プロジェクト プロジェクトメンバー全体会議，総合地球環境学研
究所，2010年11月。

山田智輝 「R̥gveda における Sarasvant」 日本印度学仏教学会第63回学
術大会，鶴見大学，2012年6月。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

2012年度，DC1，採用，1名，PD，採用，1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
10	2	0	2
11	1	0	1
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0

計	3	0	3
---	---	---	---

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	1	0	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

スダン・シャキヤ (D 2006 年度修了)

種智院大学 講師 (2011 年)

谷山洋三 (D 1999 年度修了)

東北大学大学院文学研究科 (実践宗
教学寄附講座) 准教授 (2012 年)

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2006-10 年度 国際交流基金 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物 (専攻分野刊行のもの)

『論集』 (宗教学専攻分野と共催する印度学宗教学会の機関誌) 毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010 年度

・印度学宗教学会事務局 (宗教学専攻分野と共同)

・第 53 回学術大会，大阪国際大学，2010 年 5 月 29－30 日

2011 年度

・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

2012 年度

・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

・第 54 回学術大会，東北福祉大学，2012 年 6 月 2－3 日

2013 年度

・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

・第 55 回学術大会，駒沢女子大学，2013 年 6 月 1－2 日

2014 年度

・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

・第 56 回学術大会，種智院大学，2014 年 5 月 31－6 月 1 日

2015 年度

・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

・第 57 回学術大会，東北大学，2015 年 5 月 30－5 月 31 日

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2011 年 11 月 18 日 卒業論文成果・修士論文構想発表会

2012 年 10 月 26 日 修士論文成果，および卒業論文・修士論文構想発表会

2013 年 10 月 31 日 卒業論文構想発表会

2014 年 10 月 23 日 卒業論文構想発表会

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

二名の専任教員のうち，吉水は古代のヴェーダや叙事詩が中世までにどのように継承されて，新たにヒンドゥー教とインド哲学諸学派が成立し発展したのかに関して，また桜井はインドからチベットにかけて伝播していった仏教のうち，主にタントラ仏教に関して学生教育を進めている。現在在籍中の大学院生は，大乘仏教経典，仏教タントラ文献，初期仏教文献，ヨーガ思想書などを研究対象としている。2009 年度と 2010 年度の 2 年間にわたり桜井は，現在は種智院大学准教授の Sudan Shakya 氏を日本学術振興会外国人研究員として受け入れて共同研究を行い，インド・ネパール密教の基盤を文献学的に考察した。

そもそも「インド学仏教史」の研究には「サンスクリット」、パーリ語、チベット語の訓練に時間と力を割くことが前提となるため、研究発表は数多くは望めない。参考文献を利用するために欧米言語の習得も必須である。博士論文には中核的テーマを正面から選ぶことが後の研究に重要であり、大学院生はこれに専念する必要がある。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の際には、本研究室は、文学研究科研究棟の最上階に位置するために最も揺れが激しく、全ての部屋の全ての書架から、最下段に至るまでの図書が飛び出して床に散乱し、多くの機材が落下し、壁に打ち付けてあった書架が壁から剥がれた。未曾有の危機の中で、助教の菊谷竜太は、2011年6月より研究助手となる尾園絢一とともに、懸命に研究室の復旧にあたり、4月には強い余震により再び図書が散乱するという困難を乗り越えて、5月の学期開始までに研究環境を元通りに回復することができたが、5月に開催予定であった印度学宗教学会学術大会は中止にせざるを得なかった。震災とその復旧作業のため研究室メンバーは皆、多大な労力を費やさざるを得なかったが、その間にも可能な限り研究を継続した。その一つの表れとして、2011年9月20日から23日にかけてルーマニアのブカレストで開かれた第5回国際ヴェーダ学ワークショップにおいて、吉水と、2012年3月末に定年退職して名誉教授となる後藤敏文の他に、西村直子と尾園絢一が研究発表を行い、いずれも堅実でかつ独創的な研究として好評を博した。さらに吉水と西村はその研究を継続的に発展させ、2014年1月7日から10日にかけてインドのコジコデで開かれた第6回国際ヴェーダ学ワークショップにおいて発表した。

今後さらなる充実が望まれる分野としては、古代のヴェーダ文献、中世以降のインド文学と科学、中観と唯識を中心とする大乘仏教教理の研究、パーリ経典や大乘仏典そのものの研究などが挙げられる。グローバル化する国際情勢の中で、インドは独自の文化を保ちつつ経済大国への道を歩み始めている。今後益々国際社会で注目されていくインドの文化に関して、専門的研究のみならず一般教養の面においても、人文科学の観点からの正確な認識を学生に供するために、また意義ある研究成果を発表しつつも未だ定職につく機会を得ていない若手研究者を活用する意味からも、これらの分野での非常勤講師を確保することが重要である。

III 教員の研究活動（2010～2015年5月20日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

- 後藤敏文 「資料 ヴェーダ文献に見られるプルーラヴァス王と天女ウルヴァシーの物語」 『愛の神話学』 篠田知和基編, 楽瑯書院 (名古屋), pp.435-480. 2011年3月.
- Toshifumi GOTŌ “The Rigveda Dictionary from a modern viewpoint”, *From Past to Future: Graßmann’s Work in Context. Graßmann Bicentennial Conference, September 2009*. Eds.: H.-J. Petsche, A.C. Lewis, J. Liesen, S. Russ. Basel, pp. 363-376. 2011年6月.
- 桜井宗信 「聖者流の伝える荼毘儀礼—hPhags pa lha (*Āryadeva) に帰された著作を中心に—」, 『現代密教』 第21号, pp.67-79 (横組), 2010年3月.
- 桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼(1)—dPal mchog rDo rje sems dpa’i sgo nas tha ma’i dus la bab pa rnams rjes su ’dsin pa’i cho ga を中心に—」, 『日本西蔵学会々報』 第57号, pp.1-16 (横組), 2011年7月.
- 桜井宗信 「Kambalapāda (La ba pa) の『チャクラサンヴァラ成就法』—その構成と観想法—」, 『密教図像』 第30号, pp.1-18 (横組), 2011年12月.
- 桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼(2)—Mi ’khrugs pa’i cho ga la brten nas ro’i sbyin sreg gi cho ga を中心に—」, 『日本西蔵学会々報』 第59号, pp.27-43 (横組), 2013年10月.
- 桜井宗信 「Grags pa rgyal mtshan の示す死者儀礼」, 『密教図像』 第32号, pp.1-24 (横組), 2013年12月.
- 桜井宗信 「〈Atīśa 流の阿闍〉考」, 『東北大学文学研究科研究年報』 第63号, pp.1-24 (横組), 2014年12月.
- 桜井宗信 「Sa skya 派における〈Lūyīpāda 流〉の伝承」, 『密教学研究』 第47号, pp.1-13 (横組), 2014年12月.
- 吉水清孝 「クマーリラにおける語の意味と文脈」 『東北大学文学研究科研究年報』 59, pp. 66-82. 2010年12月.
- 吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家 Bhārucci の paramātman 論」 『印度学仏教学研究』 第59巻第1号, pp. 297-302, 2010年12月.
- 吉水清孝 「シャンカラにおける瞑想の客体としての最高我 (paramātman) について」 『論集』 (印度学宗教学会) 37, pp. 213-230, 2010年12月.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the fragment of the *Bṛhaṭṭikā* on

restriction (*niyama*),” Helmut Krasser, Horst Lasic, Eli Franco, Birgit Kellner (eds.), *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis. Proceedings of the Fourth International Dharmakīrti Conference. Vienna, August 23–27, 2005.* Wien, pp. 507–521, 2011 年 7 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “How to Refer to a Thing by a Word: Another Difference between Dignāga’s and Kumāriila’s Theories of Denotation,” *Journal of Indian Philosophy*, vol. 39, no. 4-5, Special issue on 14th World Sanskrit Conference, pp. 571-587, 2011 年 8-10 月.

吉水清孝 「中世初期における仏教思想の再形成—言説の理論をめぐるバラモン教学との対立—」『シリーズ大乘仏教』2（大乘仏教の誕生），春秋社，pp. 231-266, 2011 年 12 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Tradition and Reflection in Kumāriila’s Last Stand against the Grammarians’ Theories of Verbal Denotation,” *Śaṃskṛtasādhuṭā, ‘Goodness of Sanskrit’: Studies in Honour of Professor Ashok Aklujkar*, New Delhi: D. K. Printworld, pp. 552–586, 2012 年 1 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumāriila and Medhātithi on the Authority of Codified Sources of *dharma*,” François Voegeli, Vincent Eltschinger, Danielle Feller, et. all. (eds.): *Devadattīyam. Johannes Bronkhorst Felicitation Volume*, Bern: Peter Lang, pp. 643–681, 2012 年 5 月.

吉水清孝 「クマーリラの寛容論」『印度学仏教学研究』第 60 卷第 2 号，pp. 860-867, 2012 年 3 月.

吉水清孝 「クマーリラにおける個体中心の存在論—アリストテレスとの比較による試論—」『インド論理学研究』第 5 号，pp. 1–46, 2012 年 11 月.

吉水清孝 「ミーマーンサーにおける Yajurveda 中心主義について」『論集』（印度学宗教学会）40 号，pp. 167–178, 2013 年 12 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “The *Jñānakarmasamuccaya-vāda* in the Commentaries on the *Manusm* 律 *Journal of Indian and Buddhist Studies* 61(3), pp. 1085–1092, 2013 年 3 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Distinguishing Deities—A Contextual Analysis in Mīmāṃsā,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 62(3), pp.1124–1132, 2014 年 3 月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumāriila’s Criticism of Buddhism as a Religious

Movement in His Views on the Sources of Dharma,” Akira Saito (ed.),
Buddhism and Debate: The Development of Mahāyāna Buddhism and Its
Background in Terms of Religio-Philosophical History, *Acta Asiatica* 108, pp.
43–62, 2015 年 2 月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流における二次第をめぐって—ブッダシュリー
ジュニャーナパーダとヴィタパーダを中心に」『東北大学文学研究科研
究年報』第 60 号, 東北大学大学院文学研究科, pp.(1)–(23), 2011 年 3
月.

尾園絢一 「Mahābhāṣya ad Pāṇ. III 1,7 の研究 : 意欲語幹動詞
(Desiderativ) の機能に関するパーニニ文法学の理解について」『東北
大学文学研究科研究年報』第 63 号, pp.(31)–(54), 2014 年 3 月.

尾園絢一 「古インドアーリヤ語 *śrāyati* とラテン語 *caleō*」『歴史言語学』
第 3 号, pp.3–21, 2014 年 12 月

尾園絢一 「Mahābhāṣya ad Pāṇ. III 1,7 の研究 (2)」東北大学文学研究
科研究年報』第 64 号, pp.(101)–(117), 2015 年 3 月

尾園絢一 「パーニニに文法における補完システム — *ad* と *ghas* の交代
をめぐる問題 —」『印度学仏教学研究』第 63 巻第 2 号, pp.(245)–(251),
2015 年 3 月.

尾園絢一 「正しい言葉 (*śābda-*) — ヴェーダとパーニニ文法学の観点
から」『論集』第 41 号, pp.(77)–(104), 2014 年 12 月

Junichi Ozono “The periphrastic perfect in the Vedic language and Pāṇini’s
grammar” *Vedic Śākhā Past Present Futur. Proceedings of the Fifth
International Vedic Workshop Bucharest 2011*. 印刷中

1-2 著書・編著

Toshifumi GOTŌ *Old-Indo-Aryan Morphology and its Indo-Iranian background*.
Österreichische Akademie der Wissenschaften. Wien, 217pp., 2013 年 12 月発
行.

Mark SIDERITS, Shoryu KATSURA and Kiyotaka YOSHIMIZU, *Journal of Indian
Philosophy*, vol. 39, no. 4-5, Special issue on the 14th World Sanskrit
Conference, 2011.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

書評

吉水清孝 Iwao Shima, Teiji Sakata, Katsuyuki Ida (eds.), *The Historical Development of the Bhakti Movement in India. Theory and Practice*. Japanese Studies on South Asia No. 8, New Delhi: Manohar 2011, 『北陸宗教文化』25, pp. 127-131, 2012, 3月.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Eli Franco (ed.), *Periodization and Historiography of Indian Philosophy*, Publications of the De Nobili Research Library 37,” *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism (Saṃbhāṣā)* 32, pp. 60–71, 2015, 3月.

解説

後藤敏文 「ヴェーダとインド・ヨーロッパ語族の文化」新アジア仏教史』01 インドI『仏教出現の背景』佼成出版社(奈良康明, 下田正弘編), pp. 174–177. 2010

後藤敏文 「ぶじ往還の記」インダス・プロジェクト ニュースレター第7号, 総合地球環境学研究所, プロジェクトリーダー長田俊樹, 2010年8月5日, pp. 2–8.

吉水清孝 「後藤敏文教授の業績と学風」『文化』(東北大学文学会), 第75巻3–4号, pp. 109-114, 2012, 3月.

1–4 口頭発表

【国際発表】

Toshifumi GOTŌ “A survey of some evidences for the development of Yajurveda and Brāhmaṇa texts”, The Fifth International Vedic Workshop. Vedic śākhās: Past, Present and Future), Bucharest (Romania), 20–23 September 2011.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Tolerance and Intolerance in Kumārila’s Views on the Vedic śākhā,” The 5th International Vedic Workshop, Bucharest, 20-23 September 2011, 2011年9月23日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila and his Quotations from the *Pañcaviṃśa-brāhmaṇa*,” (Japan-Austria International Symposium on “Tradition and Transmission. The Meaning and the Role of “Fragments” in Indian Philosophy,” Matsumoto, Japan), 20-24 August 2012, 2012年8月24日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Distinguishing Deities—A Contextual Analysis in

Mīmāṃsā.” (6th International Vedic Workshop, Kozhikode, India), 2014年1月9日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Another look at *avinābhāva* and *niyama* in Kumāriḷa’s exegetic works,” (5th International Dharmakīrti Conference, Heidelberg, Germany, 8月26日–8月30日), 2014年8月29日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumāriḷa’s Criticism of Buddhism as a Religious Movement in his Views on the Sources of *dharma*,” Institut für Kultur- und Geistesgeschichte Asiens, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Wien, Austria, 2014年9月1日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “From Proper Noun to General Term in Dignāga’s Theory of Apoha,” (Seminar: Semantics or Pragmatics? Institut für Kultur- und Geistesgeschichte Asiens, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Wien, Austria, 9月1日–9月2日), 2014年9月2日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “From Semantics to Pragmatics in Kumāriḷa’s Theory of Language,” (Seminar: Semantics or Pragmatics? Institut für Kultur- und Geistesgeschichte Asiens, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Wien, Austria, 9月1日–9月2日), 2014年9月3日.

【国内】

後藤敏文 「アパーム・ナパート「水たちの孫」再考」, 荷車と小屋住まい: ŚB *śālām as*], 日本印度学仏教学会第61回学術大会, 東京(立正大学), 2010年9月10日.

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる」 佼成学園, 2011年2月16日 (講演)

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼるーヴェーダと仏教」 叡山学院, 2011年6月23日 (学会講演)

後藤敏文 「ヴェーダ文献における『輪廻と業』」 龍谷大学, 2011年7月21日 (公開講演)

後藤敏文 「ヴェーダ文献に於ける個人」 東方学会シンポジウム「古代インドに於ける個の自覚と自律」(中谷英明主宰), 日本教育会館(東京), 2011年11月4日.

桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼ーdPal mchog rDo rje sems dpa'i sgo nas tha ma'i dus la bab pa mams rjes su 'dsin pa'i cho ga を中心にー」, 第58回日本チベット学会大会, 東京都文京区(東洋大学), 2010年11月6日.

- 桜井宗信 「La ba pa に帰される『チャクラサンヴァラ成就法』—その構成と特徴—」, 第 30 回密教図像学会学術大会, 徳島市 (四国大学交流プラザ), 2010 年 12 月 11 日.
- 桜井宗信 「Bu ston の示す荼毘儀礼—Mi 'khrugs pa'i cho ga la brten nas ro'i sbyin sreg gi cho ga を中心に—」, 第 60 回日本チベット学会大会, 茨城県つくば市 (筑波大学), 2012 年 10 月 20 日.
- 桜井宗信 「タクパギェンツェンの示す死者儀礼」, 第 32 回密教図像学会学術大会, 京都市 (龍谷大学), 2012 年 11 月 17 日.
- 桜井宗信 「「アティーシャ流の阿闍」—文献と伝承—」, 「平成 25 年度科研費補助金研究基盤(B)ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究 (研究代表者 久間泰賢)」第 6 回国内研究会, 仙台市 (東北大学), 2013 年 11 月 28 日.
- 桜井宗信 「Sa skya 派師資の *Cakrasaṃvarābhisamaya* 理解を巡って—文献と伝承を中心に—」, 第 47 回日本密教学会学術大会, 京都市 (種智院大学), 2014 年 11 月 7 日.
- 桜井宗信 「サパンのルーイーパーダ流理解 —『サンヴァラ・ルーイーパーダの十万粒』を中心に—」, 第 34 回密教図像学会学術大会, 奈良市 (東大寺ミュージアム), 2014 年 12 月 13 日.
- 吉水清孝 「ヴェーダーンタ思想における最高我 (paramātman) について」印度学宗教学会第 53 回学術大会, 大阪 (大阪国際大学), 2010 年 5 月 30 日.
- 吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家 Bhāruci の paramātman 論」日本印度学仏教学会第 61 回学術大会, 東京 (立正大学), 2010 年 9 月 11 日.
- 吉水清孝 「法源論から見たクマーリラの (大乘) 仏教批判」東方学会第 56 回国際東方学者会議, 東京 (日本教育会館), 2011 年 5 月 20 日.
- 吉水清孝 「クマーリラの寛容論」日本印度学仏教学会第 62 回学術大会, 京都 (龍谷大学), 2011 年 9 月 7 日.
- 吉水清孝 「クマーリラと *Pañcaviṃśabrāhmaṇa*」印度学宗教学会第 54 回学術大会, 仙台 (東北福祉大学), 2012 年 6 月 3 日.
- 吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家の知行併合論」日本印度学仏教学会第 63 回学術大会, 横浜 (鶴見大学), 2012 年 7 月 1 日.
- 吉水清孝 「ミーマーンサーにおける Yajurveda 中心主義について」, 印度学宗教学会第 55 回学術大会, 駒沢女子大学, 2013 年 6 月 2 日.

- 吉水清孝 「『カテゴリー論』における実体 (ousía) ・普遍・個体について」科学研究費補助金基盤研究(A)「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」2013 年度合同研究会, 名古屋大学文学部, 2013 年 8 月 23 日.
- 吉水清孝 「神格 (devatā) の同一性と区別についてのミーマーンサー的考察」日本印度学仏教学会第 64 回学術大会, 島根県民会館 (松江市), 2013 年 8 月 31 日.
- 吉水清孝 「ミーマーンサー・ヴェーダーンタ存在論における bhedābheda をめぐって」日本印度学仏教学会第 64 回学術大会, 島根県民会館 (松江市), 2013 年 9 月 1 日.
- 吉水清孝 「インド聖典解釈学における語用論的側面」, 印度学宗教学会第 56 回学術大会, 京都 (種智院大学), 2014 年 5 月 31 日.
- 吉水清孝 「ディグナーガのアポーハ説での固有名から普通名詞へ」アポーハ・ワークショップ, 京都 (龍谷大学), 2014 年 8 月 2 日.
- 吉水清孝 「普遍と個体—クマーリラにおける両者の非別異」シンポジウム: インドの大地がはぐくんだ世界認識の枠組み—東西哲学対話の再出発—, 東京 (東京大学), 2014 年 11 月 23 日.
- 吉水清孝 「クマーリラによる「宗教としての仏教」批判—法源論の見地から—」2014 年度 RINDAS 伝統思想研究会, 京都 (龍谷大学現代インド研究センター), 2014 年 12 月 19 日.
- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における守護尊の受容と展開」第 53 回印度学宗教学会学術大会, 大阪国際大学, 2010 年 5 月.
- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流の生起次第の伝承をめぐる」, 平成 22 年度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2010 年 7 月.
- 尾園絢一 「パーニニが記述する Desideraiv の語幹形成について」インド思想史学会第 19 回学術大会, 2012 年 12 月 22 日.
- 尾園絢一 「Pāṇini VI 1,27 ś ~~śā~~npāke」第 53 回印度学宗教学会学術大会, 駒沢女子大学, 2013 年 6 月 2 日.
- 尾園絢一 「古インドアーリヤ語 śrāyati とラテン語 caleō」日本歴史言語学会 2013 年大会, 東北大学, 2013 年 11 月 30 日.
- 尾園絢一 「正しい言葉 (śabda-) — ヴェーダとパーニニ文法学の観点から — 」第 54 回印度学宗教学会学術大会, 種智院大学, 2014 年 5 月 31 日.

尾園絢一 「パーニニ文法における補完活用：ad~ghasに見られる問題」
日本印度学仏教学会第 65 回学術大会 8 月 30 日（発表決定）

2 教員の受賞歴（2010～2015 年 5 月 20 日）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015 年度）

（1） 科学研究費補助金

- 2007 年度－2010 年度 科学研究費補助金基盤研究 (B), 後藤敏文 (研究代表者)
「リグヴェーダ翻訳研究」課題番号 19320009, 10,140,000 円(4 年間総額)
- 2009 年度－2010 年度 科学研究費補助金特別研究員奨励費, 桜井宗信(研究代表者)「ネパール仏教文化史の総合的研究」課題番号 21-09002, 1,500,000 円(2 年間総額).
- 2009 年度－2011 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 桜井宗信 (研究代表者)
「密教流伝史研究－インド・チベット密教翻訳僧データベースの構築－」課題番号 21520053-00, 2,300,000 円(3 年間総額).
- 2010－2012 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 吉水清孝 (研究代表者) 「マヌ法典註釈における法源論の研究－聖典解釈学との関係を中心に」課題番号 22520050, 3,100,000 円(3 年間総額).
- 2010－2012 年度科学研究費補助金若手研究(B), 菊谷竜太 (研究代表者) 「インド密教流派形成史におけるマンダラ儀礼の総合的研究」課題番号 22720022, 3,250,000 円(3 年間総額).
- 2010 年度－2013 年度科学研究費補助金基盤研究(B), 桜井宗信(研究分担者)「ヴィクラマシーラ寺院の学僧著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究」課題番号 22320014, 600,000 円(2010 年度配分額), 350,000 円(2011 年度配分額), 150,000 円(2012 年度配分額), 150,000 円(2013 年度配分額) .
- 2011 年度－2014 年度科学研究費補助金基盤研究(S), 桜井宗信 (研究分担者)
「仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集 (パウツダコーシャ) の構築」課題番号 23222001, 1,250,000 円 (2011 年度配分額), 1,250,000 円 (2012 年度配分額), 750,000 円 (2013 年度配分額), 400,000 円 (2014 年度配分額) 2011 年度－2013 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 後藤敏文 (研究代表者) 「『業と輪廻』理論成立史に関する原典研究」課題番号

23520063, 900,000 円 (2011 年度配分額) .

2011 年度－2014 年度科学研究費補助金基盤研究(A), 吉水清孝 (研究分担者)
「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」課題番号
23242004, 700,000 円(2011 年度配分額), 650,000 円(2012 年度配分額),
600,000 円(2013 年度配分額), 700,000 円(2014 年度配分額).

2011 年度－2012 年度科学研究費補助金研究活動スタート支援, 尾園絢一(研究代
表者)「パーニニが言及する重複語幹動詞の研究」課題番号 23820005,
600,000 円(2011 年度配分額), 600,000 円(2012 年度配分額).

2013 年度－2015 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) , 吉水清孝 (研究代表者)
「インド聖典解釈学派における寛容の実際の研究」課題番号 25370056,
1,300,000 円(2013 年度配分額), 1,300,000 円(2014 年度配分額), 1,200,000
円(2015 年度配分額).

2013 年度－2016 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 桜井宗信 (研究代表者)「ル
ーイーパーダ流「成就」実践の研究－チベットにおける受容と展開の解明
－」課題番号 25370055, 3,700,000 円(4 年間総額), 1,000,000 円 (2013
年度配分額) , 700,000 円 (2014 年度配分額) , 1,100,000 円 (2015 年度
配分額) .

2014 年度－2016 年度科学研究費補助金若手研究(B), 尾園絢一 (研究代表者)
「パーニニが言及する重複現在語幹動詞の研究」課題番号 26770020,
1,170,000 円 (2014 年度配分額) .

(2) その他

2010 年度 平成 21-22 年度東北アジア研究センター共同研究助成, 菊谷
竜太 (研究代表者) 「東北アジアにおけるシャマニズムをめぐる学
際的研究」, 300,000 円

V 教員による社会貢献 (2010～2015 年 5 月 20 日)

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる－ヴェーダ文献とことばの力」
第 54 回智積院暁天講座, 2010 年 8 月 3 日

桜井宗信 真言宗智山派伝法院客員講師: 「インド仏教学」. 2008(平成
20)年 6 月－2011 年 3 月 (※「『悪趣浄化タントラ』チベット語訳校訂
テキスト整定」研究会の主宰) .

桜井宗信 「河口慧海と仏教文献学－彼をチベットへ駆り立てたもの－」, 平成 22 年度みやぎ県民大学講師, 2010 年 9 月.

桜井宗信 「インド・チベット仏教の葬儀－「自業自得」と「利他」の交錯点－」, 第 7 期齋理蔵の講座, 2014 年 9 月.

吉水清孝 「三蔵法師玄奘が学んだナーランダーの地域と大学」, 有備館講座 (第 11 期) 「地域再考」大崎市岩出山スコアハウス, 2012 年 9 月 15 日.

吉水清孝 「インド思想の人間観－バラモン法典, 仏教, ヒンドゥー教の場合」, 平成 25 年度みやぎ県民大学講師, 2013 年 9 月 14 日.

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2010～2015 年度)

後藤敏文

日本印度学仏教学会評議員	1991 年度－現在
日本印度学仏教学会理事	1991 年度－1996 年度, 2002 年度－2011 年度
日本仏教学会理事	1991 年度－1996 年度, 2002 年度－2004 年度
印度学宗教学会常務理事	1997 年度－現在
インド思想史学会理事	1993 年度－現在
Indogermanische Gesellschaft, Beirat (印欧語学会, 顧問)	2004 年 11 月－現在
同編集企画委員	2007 年度－現在
Mitglied des Münchener Sprachwissenschaftlichen Studienkreises	2000 年－現在
Historische Sprachforschung 編集顧問	2008 年度－現在

桜井宗信

日本印度学仏教学会評議員	1999 年度－現在
印度学宗教学会常務理事	1999 年度－現在
日本仏教学会理事	2005 年度－現在
仏教思想学会評議員	2006 年度－現在
日本西藏学会委員	2006 年度－現在
密教研究会理事	2006 年度－現在
印度学宗教学会会長	2012 年 6 月－2014 年 6 月
日本宗教学会評議員	2013 年度－現在

吉水清孝

日本印度学仏教学会評議員	2009 年度－現在
日本印度学仏教学会理事	2012 年度－現在
インド思想史学会評議員	2001 年度－2004 年度
インド思想史学会理事	2005 年度－現在
印度学宗教学会常務理事	2008 年度－現在

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2015 年度)

1 大学院授業担当

桜井宗信 教授

インド仏教史特論 I	チベット密教文献研究 (1)
インド仏教史特論 II	チベット密教文献研究 (2)
インド仏教史研究演習 I	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読 (1)
インド仏教史研究演習 II	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読 (2)

吉水清孝 教授

インド学特論 I	ヒンドゥー教文献講読 (1) (Mahābhārata)
インド学特論 II	ヒンドゥー教文献講読 (2) (Mahābhārata)
インド学研究演習 I	インド哲学文献研究 (1) (『マヌ法典』註釈)
インド学研究演習 II	インド哲学文献研究 (2) (『マヌ法典』註釈)

2 学部授業担当

桜井宗信 教授

インド仏教史概論(前期)	インド仏教史概説(1)
インド仏教史概論(後期)	インド仏教史概説(2)
インド仏教史各論(前期)	チベット密教文献研究 (1)
インド仏教史各論(後期)	チベット密教文献研究 (2)
インド仏教史演習(前期)	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読
インド仏教史演習(後期)	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読
チベット語 (前期)	「古典チベット語初級文法 I」
チベット語 (後期)	「古典チベット語初級文法 II」

吉水清孝 教授

インド学概論（前期）	ヴェーダから叙事詩へ
インド学概論（後期）	インド哲学とヒンドゥー教
インド学基礎演習（前期）	ヒンドゥー教文献入門（Bhagavadgītā）
インド学各論（前期）	ヒンドゥー教文献講読（1）（Mahābhārata）
インド学各論（後期）	ヒンドゥー教文献講読（2）（Mahābhārata）
インド学演習（前期）	インド哲学文献研究（1）（Brahmasūtra 註釈）
インド学演習（後期）	インド哲学文献研究（2）（Brahmasūtra 註釈）

3 共通科目・全学科目授業担当

桜井宗信 教授

人文社会科学総論	インド学仏教史専修分1 齣
----------	---------------

(2) 他大学への出講（2010～2015 年度）

後藤敏文 教授

京都大学人文科学研究所研究班班員（1995 年度－現在）

大阪大学大学院文学研究科非常勤講師（2010 年度）

京都大学大学院文学研究科，文学部非常勤講師（2011 年度）